



福祉見てある記51

立教大学社会福祉研究所を訪ねて

本研究所研究員 出川 聖尚子
(児童福祉学)



立教大学は学生数約2万人で、池袋（東京都豊島区）と新座（埼玉県新座市）にキャンパスがあります。同大学社会福祉研究所は、池袋キャンパスにおかれており、訪問した日は、立教大学の正門の側にある2本の大きなヒマラヤ杉のクリスマスの点灯式に近いところで、クリスマスのオーナメントが飾られていました。立教大学通りに面した、ツリーの側のタッカー門近くの建物に社会福祉研究所がありました。

今回の訪問では、社会福祉研究所長の菅沼隆先生、総合研究センター課長の三浦弘子さん、総合研究センター社会福祉研究所事務局担当の新嶋聡さんにお会いしてお話を伺うことができました。

立教大学社会福祉研究所の活動

同研究所は立教大学の研究機関である総合研究センターの1つの研究所として位置づいています。

1967年に立教大学の建学の精神（キリスト

教に基づく教育）を具体的に実現する拠点として設立され、社会福祉を総合的な視点に立ち、人間一人ひとりの幸福の実現のために活動を続けているということです。

主な活動は、①定期刊行物の発行、②公開講演会の開催、③研究例会の開催、④各種セミナーの開催の4つとなっています。

① 定期刊行物は、紀要『立教社会福祉研究』（年1回）、「立教社会福祉ニュース」（年2回）であり、紀要では、多角的観点から取り組まれた社会福祉とその関連分野を研究対象とする論文等を掲載し、「立教社会福祉ニュース」では公開講演会、セミナー、研究例会などの研究所の活動を報告しています。

② 公開講演会では、(おおよそ年2回) 社会福祉のフロンティアという時代に先駆けた話題のテーマについて学外から講師を招いて開催しています。学内の施設で、平日の夕方6時以降か土曜日午後という時間設定をし、多くの人に参加できるような工夫を行っています。今年5月には社会福祉学の視点とスポーツ学の視点からパラリンピックの意義を考える講演会が開催されました。

③ 研究例会は、2か月に1回、所員や研究員のメンバーの研究を報告する研究会で、年7回ほど開催します。研究所の総会で活動方針が決められる中で予定がたてられます。所員や研究員は例会の発表は積極的に行うということです。



三浦弘子さん、菅沼隆先生、新嶋聡さん（左から）

④ 各種セミナーでは、社会福祉セミナーと家族援助技術セミナー、家族コミュニケーションセミナーが開催されています。現在社会福祉セミナーでは小山進次郎の『生活保護法の解釈と運用』を研究者、社会福祉専門職、民間支援団体者とともに輪読しています。

他に、カウンセリングのできる先生が不在となったこと、さまざまな相談機関が周りに増え利用者が少ないこと、コストの問題などによって今年の9月末から活動を休止していますが、社会福祉研究所の基幹的な役割を果たしていた家族福祉相談室も社会福祉研究所の活動の一つです。

社会福祉のテーマに関する多角的なアプローチ

社会福祉研究所の構成員は、所員と学内外の研究者によって構成されています。所員は立教大学専任教員ら（15名）で、研究者は特任研究員（9名）、研究員（10名）に分かれており、特任研究員は学外で専任を持ち同研究所に所属しているもの、研究員は主に立教大学の後期課程の大学院生となっています。



同研究所の所員は、池袋キャンパスにある経済学部、社会学部、文学部、法学部などの教員で、現在は福祉系の教員は少ないということです。社会福祉を学ぶ学部は新座キャンパスにあり、福祉系の教員は新座キャンパス

にあるコミュニティ福祉研究所とのかかわりが多いといいます。講演会やセミナー等の内容によってはウェルネス研究所とコラボすることもあるのだそうですが、社会福祉研究所は社会福祉のテーマをさまざまな学問領域からの多角的なアプローチを行うことを大きな特色として、それを活かした活動を行っているということです。近年では、同研究所で科研費申請をし、結果を『自立と福祉－制度・臨床への学際的アプローチ』にまとめたそうです。課題としては、赴任された教員のなかで、社会福祉に関心を持たれている方が研究所の所員となるため、研究所のネットワークや学際的な広がりには偶然性に左右されることを挙げられていました。

大学院生の研究支援

研究員である大学院生は、毎年、専任教員である所員の推薦をもらい、今年度の成果報告と次年度に向けた研究計画を出し、審査を受けて研究員になります。同研究所の研究生になることによって、研究例会の参加が可能となり学際的な学問領域に触れることができたり、また、池袋・新座の両キャンパスの本の貸し出しが可能な図書館証を発行したりという研究支援が受けられます。大学院生は積極的に申請しているということです。

今回訪問させていただいて、学際的な社会福祉の場、研究の発信の場、研究支援の場として所員がさまざまな形で研究所にかかわり、積極的に活動している立教大学の社会福祉研究所の姿にとっても刺激を受けました。本学の社会福祉研究所もさまざまな活動を行っていますが、特に大学院生の支援については本学においても参考になるのではないかと感じました。

家庭児童相談室の窓から

キャンパスの木々の葉が赤く染まり始めるころ、本学の大学祭「託麻祭」が開かれます。相談室前方の特設ステージからスピーカー音が鳴り響くので、この日は面接を入れられません。けれど、かつてこの日に訪れた相談者がいました。継続して面接していた不登校の女子中学生です。

楽器が上手で音楽系の部活で活躍していましたが、部員から嫉妬を買って嫌がらせを受け、学校に足が向かなくなっていました。今後どうするかを迷っているところに託麻祭があり、興味があるというのでいっしょに見物することにしましたのです。

彼女が最も関心を示したのは、やはり音楽

サークルの発表でした。ただ、彼女の演奏技術が優れていたため、大学生の演奏に失望しているのではないかと気になりました。

ところが後で彼女に聞いてみると、順位や勝敗を気にしないで自由に音楽を楽しんでいる姿をうらやましく見ていたそうなのです。息の詰まる今の中学生生活をやり過ごせば、何年か先に自分らしい生活ができるかもしれない。そんな可能性に気づいたようでした。

その後、彼女は希望の高校に進学し、充実した高校生活を送りました。

託麻祭の季節になると、彼女のことを思い出します。楽しそうな大学生の姿を見て、勇気もらった中学生や高校生は今年もいたでしょうか。

(家庭児童相談室 相談員 砂川真澄)

家庭児童相談室の御案内

あなたの支えに…＊
家庭のこと、子どものこと、自分のこと



熊本学園大学付属社会福祉研究所 家庭児童相談室

家庭や家族に関する問題や、子どもさんのことについて
ご相談をお受けします。ご心配なこと、お困りなことが
ありましたら、お気軽にご利用ください。

受付 水曜日10:00～15:00 / 金曜日10:00～15:00
(12:00～13:00は昼休み)
年末年始、祝祭日は休みです。費用は無料です。

相談室電話 ☎ 096-364-8732

発行所 熊本学園大学付属社会福祉研究所

〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1 ☎ 096-364-5161 (代)

発行人 所長 守弘仁志 編集人 社会福祉研究所委員会

印刷所 コロニー印刷 ☎ 096-353-1291



■古紙再生率100%の再生紙を利用しています。

■揮発性有機化合物発生の抑止と紙のリサイクル性に優れた「大豆インキ」を使用しています。